

神戸大学附属中等学校 授業研究会記録

授業者：中川雅道

以下は、平成 27 年 2 月 6 日に行われた授業研究会の対話録です。

38 人の生徒が輪になって床に座っている。本日の問い「世界が欲しがる人間とは？」が板書されている。最初に先生から議論のルールの説明。

中川：さて、それでは始めます。今日はたくさんの先生方が見に来られていますが、いつも通りでいきましょう。ボールを持っている人が話す、話した後に次の人に渡すというルールで議論を行います。大事なのは一つだけです、リラックス。ゆっくりやりましょう。それでは、今日の問いはみんなで作った「世界が欲しがる人間とは？」という問いです。答えることができる人から始めましょうか。

A：僕はどの面においても万能な人だと思います。例えば、自分の意思を伝えることができ、他の人の意見も尊重できる人だと思います。

B：どの国に行っても、その国の言葉を話せる人だと思います。どの国の言葉も話せる賢い人だと思う。

C：ビジネスの面でも、人間性の面でも、全てにおいて優秀な人だと思います。

D：今日の議題は世界が欲しがる人間ということだけど、国によって必要としているものは違うんじゃないかな。

E：みんなに質問があるんだけど、「世界」ってどういう意味なのかな。世界という言葉の意味をはっきりさせるべきだと思う¹。

C：Dさんの意見についてなんですけど、国によって違うというのは分るんですけど、今日の問いは「世界が欲しがる人間」だから、例えばイスラム国では武力が求められると思うんですけど、世界ではそうじゃないと思うんで、一つの国にだけ求められているだけでは決まらないと思います²。

F：ビジネスということが出たので、僕はリーダーシップがあって、統率力とか企画力のある人だと思います。たとえば、スティーブ・ジョブスとか³。

G：Eさんの意見なんですけど、この問いが生まれたのは「グローバルキャリア」について考えるということからで、世界はグローバル化しているという状況があると思うんです。イスラム国のような状況だけではないと思います。

¹ E は定義を求める。

² E に答えるのではなく、D への反論をする。

³ F は具体例も挙げている。

H: 世界はビジネスで動いていて、イスラム国の状況とは違ってると思います。今の社会は会社の質を数字で見ている、そういう会社で働く優秀な人は育成すれば誰でもなれると思います。でも、世界が本当に欲しがると人は世界の中心を守ったり、支えている人だと思う。そういう人たちがすべて偉人とは限らない。それがどの世界も欲しがると人⁴。

中川: 色々な意見が出ましたね。ただ、世界が欲しがると人間は国によって違うという意見と、そうではなくて全世界が欲しがると人ってどんな人だろうという意見が出ていて、この区別は大事だと思います。全世界で欲しがられる人間とはどんな人なんでしょうね。

I: 国によって欲しがられる人は違うっていうことだったんですけど、例えば環境問題とか地球温暖化とかは世界のすべての人に関わりがあると思って、でも私たち一人一人はまだ何もやってないと思うんです。だから、みんながやる気を持つようにしてくれる人が世界から必要とされてると思います⁵。

J: 必要とされてるのは、一人の個人じゃないと思う。例えば…… (J が考えている時間が続く)。

中川: ゆっくりいきましょう。

(待っている間に周りから笑いが出る。議論への参加を促しているような暖かい笑い)。

J: 例えば、道路を作っている人とか。道路を作るのは一人ではできないし、たくさんの方が役割を担うことで成り立ってると思う。

K: みんなが議論してるように、一つの国じゃなくて世界が共通に求めている人ってことなんですけど。私は、物事をいろんな立場から、客観的に考えられる人のことだと思います。周りに流されるとかじゃなくって⁶。

E: みんなニュースとかで見てると思うんですけど、ジャーナリストの後藤健二さんみたいに、自分の信念を貫いて、正しいことに真直ぐに向き合える人。世界を変えていく人のことだと思います。

L: Eさんは後藤さんのことを言ったけど、世界がそれは違うだろうと言ったらどうなりますか。

E: 周りに変だと思われたとしても、前の授業でも話題になったように、人を救う正義を実現することだと思う⁷。

中川: えっと、早くてついていけなかったもので、Lさん、もう一度説明してもらってもいいですか。

⁴ HはGの発言を受けて、Dへの反論。一般的に国によって違うということでは済まされないという意識が見える。

⁵ Iは他の発言者と異なり、自分に結びつけて、自分の問題として受け止めて発言しているように見えた。

⁶ Kは議論の流れを受け止めて発言。

⁷ 以前の授業の内容を受けた発言。

L: 人それぞれに正義があると思うんです。自分が思っていることが正義だと考えている人が複数人いたとしても、それを正義だと思えない人が多いときには、そのことが正義ではないと言ってしまうのではないかってことです。例えば、イスラム国みたいに⁸。

M: ボスとリーダーは違うと思って、ボスは上から目線で命令を下すと思うんです。それで弱い人を切り捨てていくのがボスだと思います (M が中川をチラッと見る)。

中川: なんでこっち見てんねん。

(笑いが起こり「組長」という囁きが起こる。笑いながら M が続ける)。

M: それで、リーダーっていうのは弱い人と同じ立場に立って、自分も一緒になって周りを励まして、周りを引っ張っていく人のことで、ボスじゃなくてリーダーが世界から必要とされていると思います。

N: 後藤さんの話に戻るんですけど、弱い人のことを考えることができ、後藤さんみたいに行動できるリーダーがやっぱり必要とされていると思います⁹。

O: 意志が良いとか悪いとかには関係ないんじゃないかなって。悪いことであっても真っ直ぐに前に進むことが大事で、自分が思うこと、自分の信念に正直に突き進むことが大切だと思います。後藤さんについて、E さんと同じ考えです。

I: O さんの意見についてなんですけど、いい悪いと関係ないというのはおかしいと思うんですが。

D: 後藤さんは結局、周りの人とか日本全体に迷惑をかけているのだから、世界の欲しがる人じゃないと思います。でも、後藤さんは最初評価されていなかったけど、後から評価されるようになったと思います¹⁰。

E: 後藤さんが日本に迷惑をかけたって D さんは言ったんですけど、迷惑かけてるのはイスラム国であって、後藤さんではないと思います。

I: みんなの意見を聞いていて思ったんですけど、多くの人を共感させることができたり、多くの人共感できることを実現できる人がリーダーなのかなって思ってきました。

J: 後藤さんのことだけど、上の人とかみ合わなければ迷惑となる。上と食い違わないことが前提なんじゃないかと思います。

M: 後藤さんが迷惑だと言うけど、『シンドラのリスト』っていう映画があって、そのシンドラと似ていると思います。シンドラはユダヤ人を助けるために自分の会社でユダヤ人が働けるようにして、たくさんユダヤ人の命を救って、すごい人だって評価されるんです。後藤さんはそれに失敗してしまったので、迷惑だと思われてて、でも、うまく行ったか行かなかったかはどうあれ、行動が評価されたんじゃないかと思います¹¹。

⁸ 以前に行った「正義とは何か」の議論の蒸し返しになりそうな気配。

⁹ N 以前の発言は別の発言を挟んで応答していたり、主題も移り変わったりしているが、N の発言辺りから後藤さんという具体例への言及をしつつ、主題が定まり、議論の深まりが見られるようになる。これ以降のイスラム国、後藤さんについての議論はメディアが流す怖いイメージをクラス全員で共有しつつ、そのことについて語り、考えることで恐怖を緩和していこうとしているように見えた。

¹⁰ D は発言が少し揺れている。

¹¹ M は生活の中で得た知識を運用している点が非常に評価できる。

中川：なるほど、なぜイスラム国の話になって、後藤さんの例になったのかすぐには分からなかったんですが、みなさんは後藤さんが世界から求められていたのかということを通して、今日の問いを考えていたんですね。他の人はどうでしょうか。

P：みんなうまくいったかどうかは関係ないとか言ってるんですけど、結局、失敗した人は世界から欲しがられないんです。失敗には何か油断というか、欠けているものがあって、失敗しちゃうと欲しがられないと思うんです。

M：失敗したら必要とされないと限らないと思って、失敗は誰でもしてしまうと思います。でも、失敗する過程で成功につながっていくはずで、失敗を怖がって何もしないより、失敗を覚悟して行動する人のほうがいいと思います。

I：例えば、エジソンとかそういった発明家のことなんですけど、できた発明品をすごいって言われるのは、あきためずに何度もやり通して、達成できたから、すごいことなんです。何回も何回も失敗して、ようやく成功して、偉人になるんだと思います。

D：やっぱり、失敗したからというのではなく、実現できたから必要とされるんだと思います。

中川：面白い議論ですね。世界は失敗しているような人を本当に欲しがらないのでしょうか、それとも成功しているからこそ欲しがるということなんでしょうか。ちょっと難しいですが。

A：失敗したら欲しがられないっていう先生の言っていることは正しいかもしれないんですけど、Iさんの言うように失敗しても欲しがられている人もいます¹²。

P：みんなの言うことも分かるんですけど、やっぱり失敗すると周りに迷惑をかけることになると思うんです。

O：成功・失敗以前に、自分の意志を貫くことが前提になっていると思います。失敗した人は何か油断があったかもしれないし、失敗には何かしら自分に原因があるかもしれない、でも、チャレンジすることは必要だと思います。

(議論が伯仲してきている雰囲気¹³)

Q：結果ではなくって、姿勢が大事だと思います。

R：失敗か成功かは分からないんですけど、後藤さんの行動によって、みんながイスラム国について考え出して、団結することができると思って、失敗が、成功するための導きになってるんじゃないかと思いました。

¹² Aは教師のまとめに反論して、自分の意見を述べている。

¹³ ここで議論の中心になった「結果として失敗であればその行為は悪になる」という議論は、歴史的に人類が問題としてきた議論である。古くは孟子と荀子の対立、カントとミルの対立など枚挙に暇がない。歴史的に非常に重要な議論に、自分たちの力で辿り着いた点を非常に評価することができる。

S: 私は O さんの意見を聞いてなるほどと思って、やっぱり貫きとおすことが大切だと思います。私は、今がとても幸せで、でも、後藤さんみたいに行動できないと思うんです。私には後藤さんが世界から必要とされているかは分からないんですけど、自分にはできないことを最後までやり続ける人は尊敬できるって思いました¹⁴。

I: みんなの意見を聞いて思ったんですけど、自分の意見を貫くとか、どういう意志を持つかが大事っていうのは本当にそうだなって思って、でも、前の時間に人生で一番大切なものは何かについてみんなで話し合った時に「幸せになること」っていうのがみんな共通してるっていう話になったと思うんです。私たちは日本で暮らしてて、ほとんどの人が幸せで平和だと思うんです、でもそうじゃない人たちがいて、その人たちは平和に暮らしたいとか、戦争が起きていて苦しんだりしてて。世界が欲しがる人って、そういう弱い立場にいる人たちのことを考えることができ、みんなが平和になれるように願いを持ち続ける人だと思うんです¹⁵。

中川: いやあ、みなさん、すごいですねえ。結果として失敗したら世界から必要とされていないんじゃないかっていう面白い議論があったと思うんですけど、それがそうだとしたら、失敗ばかりしてる私なんかは、世界から必要とされていないんでしょうねえ（笑いが起こる）。さて、そんなことよりせっかくなので梶形先生、今日の議論を聞いていて、感想をどうぞ。

梶形: 今日の議論は本当に素晴らしかったですね。ところで、皆さんに一つ質問があります。皆さんが使っているこのコミュニティボールというのは実はもともとアメリカの原住民が円になって（トークバーを見せながら）こういうトークバーと呼ばれる棒を回して集会を行っていたということをヒントに作られたものです。私からの質問は、コミュニティボールを使って話すということは、皆さんにとってどういう感じを与えているのでしょうか、それを聞かせてください。

O: トークバーは投げると痛いから、投げれない（笑いが起こる）。コミュニティボールは柔らかくて投げやすいし、話してほしいと思う人に投げることができるのでいいと思います。

C: コミュニティボールもそうなんですけど、この輪になって座ってるのが良いと思って、普通の授業で発表とかもいっぱいあるんですけど、なんかみんなが座ってるところに自分だけ立って話すので、同じ目線で話すことができないと思います。これだと、同じ目線で話すことができるんで、いいと思います。

F: ボールを持って話すっていうのがシンプルなルールで、話している人が分かりやすいの

¹⁴ R は人の発言を受け止めてその意見を自分のものにして、「尊敬」という倫理的用語をこの発言で正しく使っている。

¹⁵ I は最後に発言し、全体の意見を締めくくり、前の授業に言及した上で、自分の意見を述べた。優れて道徳的な結論で総括してくれた点が、非常に評価できる。

でいいと思います。

T: コミュニティボールだと、思ったことをさっと言えるのでスピーディーだと思います。他の人の意見を聞いていて、自分の意見が変わることがあるので、いいと思います。

D: みんな覚えてないかもしれないですけど、コミュニティボールは一番初めの国語の授業で、みんなで棒に糸を巻いて作ったと思うんです。みんなで自己紹介しながら作ったので愛着があって、1年間を通して使ってきたので、やっぱり使いやすいと思います。

ワークシートによる対話評価の集計結果（生徒記入）

議論は楽しかったですか？	楽しかった 26名	まあまあ 10名	あんまり 0名
安心して話せましたか？	安心して話せた 10名	まあまあ 24名	あんまり 2名
深く考えることができましたか？	できた 29名	まあまあ 6名	あんまり 1名

自己評価の書き忘れ 2名

（文責 榊形公也・中川雅道）

研究協議会記録

授業者 中川雅道（神戸大学附属中等教育学校教諭）

生徒はよく頑張った。附属の生徒は研究授業に慣れているということもあるけれど、今日は少し背伸びしていたかな、そういう面はありました。担任として良いと思ったのは、各々への賛成意見、反対意見、質問等さまざま出たこと、普段は発言していない生徒も話す機会になったこと、難しい問題を抱えている生徒が自分の思っていることを伝えようとしたこと等、たくさんあります。最後に落ちつかせる発言をした生徒（女子）も、最近話すことが増えてきた生徒です。

- ・ 本校での P4C の実施の報告、また、来年度に行う予定の P4C のねらい
- ・ P4C に関する生徒の評価
- ・ P4C に関する、学校での実践以外の、研究会や月例ミーティングの紹介

指導助言者 榊形公也（大阪教育大学名誉教授・武庫川女子大学名誉教授）

- ・ 2月4日の新聞記事「道徳教育で考える道徳に転換」（文部科学省）の紹介

2010年に文科省は保護者用のパンフレット「新学習指導要領・生きる力」を作成した。そこでは「これからの社会を生きる子どもたちは、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力（クリティカル・シンキング）、様々な情報を取捨選択できる力などが求められる」としている。このことを受ける形で、2015年2月4日に示された新しい中学校学習指導要領案の「道徳の指導計画と内容の取扱い」の中で、配慮すべき項目として、「生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、生徒自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること」が挙げられている。今日の授業は、こうした改訂の先取りになっている。先生は方向付けのみして、あまり発言せず、多くの学生が発言し（発言数自体も非常に多く）、ずっと考えていた。模範的に答えるというのではなく、率直な感想を述べていたことも評価できる。

前の授業での P4C を受けて、今回に繋がっていることもあった。総じて自分たちの言葉で語っていて、最近のトピックと関連させている。話さない生徒はどうかと危惧されているかもしれませんが、今回初めて発言した子がいるように、話さなくても常に子どもは何かを考えている。授業の最後にわたしから「コミュニティボールを使うことをどう思

う？」と尋ねてみたが、コミュニティボールはいい。生徒はコミュニティボールに注目し、耳を傾けている。良い素材で、良い授業でした。

指導助言者 菊地建至（大阪教育大学等非常勤講師）

榊形先生の紹介にもあった新しい道徳教育に、P4C は向いていると思います。今日も、そういう探究としてのよい面がたくさんあった。他面、今日の P4C に関しては「行儀のいい、整頓された」ものという感は否めず、そういうものだけが P4C ではないことについてもここで話しておきたい。

今日は、学校の目標に含まれる「グローバルキャリア」という言葉、そういう意味では大人が下ろしてきた言葉、こどもの普段の思い悩みから出てくる言葉ではなく大人からの言葉にかかわって考えるということもあって、やや行儀よい展開になった気がします。P4C には、日常的にあるこどものモヤモヤ、苛立ち、不満、消化できていないことなんかが口にされるところから進んでいくものもあって、それも、とても有意義です。P4C の多様さを知ってくださるとうれしい。

- ・ 資料提供「現在の大学生が小中学校の【道徳】を振り返り、考えたこと」（2014 年 11 月開催の関西倫理学会シンポジウムで報告したこの内容は、2015 年 6 月に公刊される予定です）

数年前まで日本のどこかの小中学校にいた大学生の声をしっかり聞くことは、今後の道徳教育や P4C を考えるうえで有益です。多くの大学生や社会人にも定着している「ミソゴロス（言論嫌い）」や「模範解答に合やすこと」が、学校生活の中で正直に発言することが難しかったことにも根があるとすれば、率直に話し、他人の言葉をよく聞き考え合う P4C にできることは多い。また、こどもには道徳の知識も経験もないからゼロから学校の道徳教育でそれを伝えるというのでなく、こどもの道徳に関する日常の経験も聞き、考える道徳を考案するとすれば、P4C がそれに生きると思います。

研究協力者 金澤正治（西宮市立小学校教諭）

P4C は、10 年ほど前に榊形先生に教えてもらい、それから自分の学校で実践しています。いまは 4 年生としています。P4C にはいろんな種類があるけれど、今回のものは主にハワイ方式で、コミュニティボールも重要な役割がある。こどもたちが語ってくれる。コミュニティボールを使うことで、なぜこんなに言葉が出てくるのか。

まず、円になって話し始める。たいてい先生は黒板を背に、40 人のこどもを見ていけないといけない。しかし、P4C はそうではなく、同じ視線から話ができる。同じ視線に入る

ことで、自分の無力感も感じた。

また、コミュニケーションボールではない、コミュニティボールだ、このことが重要です。コミュニティボールは共同体（コミュニティ）を作る。このボールによって、空気を読まなくても発言できる、安心な共同体をつくりだせるんです。相互承認の雰囲気が高まる。生徒の発言に反応し合う、つぎ誰に投げるかをこどもどうしで目配せしている。そして、笑いがこぼれる。これらは大切なことではないか。また、このボールは、考えているのが見える。だからみんなが待ってくれる。コミュニティボールを持ってしばらく黙っているこどもがいる。考えている。それで止まる。周囲の生徒は「考えているんだろうな」と注目する。

P4C は、コミュニティボールを通して話し、こどもの考えを深めるいい機会になっています。先生から聞くのではなくとも、自然に言葉が生徒から出てくるんです。また、生徒同士で意味の捉えられ方が違う時、先生が口出しせずとも、訂正し合っています。

研究協力者 森本和夫（枚方市立小学校教諭）

わたしは大阪府の公立で教えています。大阪は学力が全国で45位 その中でも厳しい学校にいます。落書きも多い。「みんなの道徳」を使うけれど、そこに使われている漢字が読めない。それで円になってしゃべらせてみよう。最初こどもは「フルーツバスケットでもすんの？」、そんな反応を示す。はじめはリラックマのぬいぐるみをボールがわりに使っていたが、こどもは乱暴に扱っていた、こわれるほど。問いも、4月の問いはしょうもないものが多かったけれど、P4C を実践していくうちに1月頃には道徳的な考え（問い）や哲学みたいなものが出てくるんです。

P4C で新しい発見が多くあります。コミュニティボールで話すことはできる。コミュニティボールで話すことから作られるものがある。こどもどうし6年間一緒であっても、P4C をして、6年生で初めて知ることがあるんです。

質疑応答（ただし時間があまり残っておらず、一言ずつ発言してもらうことを優先する）

男性：奈良県の私立中学校教諭

道徳改訂をどうするか。わたしは私学に移って4年ですが、かつてしんどうい学校に勤めていた。森本先生の話がよくわかる。実践したいと思います。

女性：姫路市立中学校「家庭科」教諭

コミュニティボールは柔らかいため、スピード感をなくし、危なくなく、いい。柔らかい雰囲気も出る。汚れても味があるかな。家庭教育が低下している中、道徳で倫理観を養うことが大事だと思います。

男性：高校向けの出版社勤務

道徳は答えが出なくていいというのは知っていた。今日の P4C は大人の議論と変わらないと思った。印象に残ったのは「私たちは裕福で幸せ」という発言。果たして他の子はどうか。森本先生の話にリアリティがある。

女性：山口県在住

理論立てて話すこどもがいたが、どうしてあんなことができるのでしょうか。ニュース等の分析力が高いとか、他の授業でも準備があるとか、そういうことでしょうか。

→特に何もしていない。学力が高いこどもが多いということではなく、そういうことが難しいこどももたくさんいます。家庭でのあり方も影響していると思います。(中川先生)

女性：本学養護教諭

保健室で見えていても、相手がどう思うかを必要以上に（ネガティブに）気にかけるこどもが少なくない。本音で話してもいいと思うが、現状少ないと感じる。P4C は本音を言っていていい、本音で話すことができる、そうになっていく。

男性：島根県

公立学校でも1年で変わるものなんだなあ。やってみようと思います。

男性：静岡県の公立中学校教諭

初めてこのような形式を見た。普段からよく考えていないと難しいかな。うちの学生に厳しいかもしれないが、自校でも取り入れたいと思う。クラスに安心感が生まれると、自分のことを話すようになる。日本の社会で「道徳」が変わっていくことに、不安と楽しみがある。

女性：大学院生

P4C に興味があって来ました。自分が実践するのは難しいと思うけれど、複数人で哲学的考えを共有する場は少なく、こういう場は面白い。

女性：こどもが話した「ボスとリーダーの違い」が印象に残った。

男性：神戸総合教育センター

生徒の事実誤認がある場合、教師はそれをファシリテーターするのか。価値に関して間違った考えで終わった場合、教師はそれをどうするのか。→差別的、相手の人格を否定するときは、間髪入れずファシリテーターとして働く。基本的に、おかしいと思ったときは、先生が直接言うのではなく、他の生徒にその考えについてどう思ったか投げかければ、反論する生徒はいます。(榊形先生)

男性：三田市

これまでやったことないが、P4C を実践、提案したい。

(文責 菊地建至)